

報告第 18 号

令和 3 年度公益財団法人宇治市文化センター経営評価の報告
について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第 5 条
第 1 項の規定に基づき、令和 3 年度公益財団法人宇治市文化センタ
ー経営評価について、別紙のとおり報告する。

令和 4 年 9 月 21 日提出

宇治市長 松 村 淳 子

清公財宇文第8号
令和4年6月30日

宇治市長 松村 淳子 様

所在地 宇治市折居台一丁目1番地
法人名 公益財団法人宇治市文化センター
代表者名 代表清算人 土屋



宇治市出資法人自己評価報告書の提出について

公益財団法人宇治市文化センターの令和3年度経営評価について、宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第4条第2項の規定に基づき、別紙のとおり宇治市出資法人自己評価報告書を提出します。

第1号様式

宇治市出資法人自己評価報告書

1. 法人の概要

団体名	公益財団法人宇治市文化センター	設立年月日	昭和59年9月1日
公益財団法人への移行年月日			平成23年4月1日
基本財産	10,000千円 (移行前 10,000千円 うち市出えん・出資金 10,000千円 出資比率100%)		
設立目的	すぐれた文化、芸術を企画、公開し、並びに市民の文化活動の育成を図り、もって市民の文化、芸術の普及向上に努め、広く市民文化の振興に寄与する。		

2. 役職員の状況

		令和元年度			令和2年度			令和3年度		
		市職員	市OB		市職員	市OB		市職員	市OB	
役員	常勤	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	非常勤	14	3	2	14	3	2	14	3	2
職員	管理職	2	0	2	2	0	2	2	0	2
	一般職	6	0	2	6	0	2	6	0	2
	計	8	0	4	8	0	4	8	0	4

*役員と職員の兼務は重複して計上している。

3. 事業の概要

主要事業名	事業内容
文化会館 自主文化事業	舞台芸術公演及び映画上映会等の開催〈公演等開催事業〉 市内文化芸術活動団体への文化会館使用料の助成〈使用料助成事業〉
文化会館運営事業 (貸館事業)	文化芸術活動等に対する文化会館の施設・設備の提供
文化センター 施設管理事業	文化センターの施設・設備の保守・保全

4. 財務状況

1) 正味財産の状況

(単位：円)

年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収 益	145,057,404	142,874,167	143,398,675
収益事業収益等	7,825,465	7,057,326	4,710,004
市支出金	137,231,939	135,816,841	138,688,671
人件費	39,642,989	38,943,242	41,721,591
事業費	97,588,950	96,873,599	96,967,080
費 用	145,057,404	142,874,167	143,398,675
人件費	39,642,989	38,943,242	41,721,591
事業費	105,414,415	103,930,925	101,677,084
当期経常増減額	0	0	0
当期正味財産増減額	0	0	0
期末正味財産合計額	10,000,000	10,000,000	10,000,000

2) 貸借対照表

(単位：円)

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資産合計	40,831,549	41,933,721	45,749,741
流動資産	11,309,779	12,644,914	16,460,934
固定資産	29,521,770	29,288,807	29,288,807
負債合計	30,831,549	31,933,721	35,749,741
流動負債	11,309,779	12,644,914	35,749,741
固定負債	19,521,770	19,288,807	0
正味財産合計	10,000,000	10,000,000	10,000,000
基本財産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
その他正味財産	0	0	0

3) 市財政支出の状況

(単位：円)

年度	平成元年度	令和2年度	令和3年度
補助金	45,373,065	43,296,867	44,829,532
委託料	91,858,874	92,519,974	93,859,139
その他(分担金等)	0	0	0
計	137,231,939	135,816,841	138,688,671
貸付金	0	0	0
借入金残高(期末)	0	0	0
市の債務保証残高(期末)	0	0	0
市の損失補償残高(期末)	0	0	0

4) 主要経営指標

指標	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費比率	人件費計÷費用計	27.3%	27.3%	29.1%
自己資本比率	正味財産計÷資産計	24.5%	23.8%	21.9%
流動比率	流動資産÷流動負債	100%	100%	46.0%
借入金依存度	借入金残高÷総資産	0%	0%	0%
借入金返済能力	長期借入金÷(減価償却費+税引後利益)	- %	- %	- %

5. 経営評価（法人自己評価）

視点	評価	コメント
目的 適合性	A	<p>文化芸術の振興を主目的とする宇治市出資法人として、文化会館自主文化事業（公演等開催事業、文化会館使用料助成事業）を積極的に推進し、市民の文化芸術の普及向上に努めるとともに、宇治市文化会館の指定管理者として、市民の文化芸術活動をはじめ施設利用者の催物・諸活動の円滑な実現と施設・設備の保守保全に努め、法人の目的である「市民文化の振興」に適合した事業活動に取り組むことができた。</p> <p>なお、事業活動の実施にあたっては「宇治市文化会館新型コロナウイルス感染防止対策」を作成し、利用者・関係者にマスクの着用、手指消毒、検温などの基本的感染防止対策をはじめ利用人数の制限や施設の換気、人と人との間隔を確保した会場運営などの感染防止対策を要請するとともに、施設・設備の日常消毒、感染防止対策物品の貸与などに取り組み、感染症対策に万全を期した。</p> <p>（1）公演等開催事業</p> <p>宇治市補助金、京都府委託金、芸術文化振興基金助成金及び企業協賛金（前年度収納）の交付を受け、次の事業区分により文化芸術の参加・鑑賞機会を提供した。</p> <p>□ 鑑賞機会提供事業</p> <p>舞台芸術公演5件（音楽、芸能等）及び宇治シネマ劇場9件を開催し、市民をはじめ広く文化芸術の鑑賞機会を提供した。</p> <p>宇治シネマ劇場では、ワンコイン上映会や新春茶席の同時開催に取り組むとともに、引き続き、鑑賞カード（5回鑑賞で次回無料）を発行して集客増員に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため <ul style="list-style-type: none"> 舞台芸術公演1件中止、宇治シネマ劇場3件中止 ❖ 宇治シネマ劇場入場者の目標数達成度は、前年度に比べ24

ポイント向上したが、引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響もあって目標数を達成することができなかった。

□ 参加創造事業

地域に根ざした文化芸術の振興に努めるため「源氏物語朗読劇講座」を開催し、市内の小中学生に文化芸術の参加創造機会を提供するとともに、宇治市文化会館の特色ある取り組みを広く発信した。

❖ 講座では、市内小中学生・高校生15人が参加し「宇治っ子朗読劇団☆Genji」を結成して、宇治に関わりの深い古典「源氏物語」を題材にしたワークショップ型公演に取り組み、宇治市の文化資源を次世代に伝えるとともに、市内のマンドリンアンサンブルの協力を得て定例公演を開催した。

❖ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため
ワークショップ型公演1件中止

□ 普及啓発事業

宇治市、宇治市芸術文化協会との共催事業である「宇治市民文化芸術祭」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(2) 文化会館使用料助成事業

宇治市文化事業基金を活用して、文化芸術の普及向上に寄与する市内の12団体に文化会館使用料助成金を交付し、市民の文化芸術活動の育成・促進に努めるとともに、当該事業を通じて文化芸術の鑑賞機会を創出した。

❖ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため
交付決定事業6件中止

(3) 文化会館運営事業

利用担当者制の導入などによりコーディネート機能の向上を図り、利用者の催物・諸活動の円滑な実現に努めたが、新型コロナウイルス感染症対策に伴う催物・諸活動の中止や規模縮小により、施設の利用実績は感染症拡大前の状況を下回った。

〈施設利用実績〉

□ 年間利用日数

大ホール・・・・・・・・・130日（前年度 73日）

小ホール・・・・・・・・・ 89日（前年度 66日）

ホール全体・・・・・・・・・164日（前年度102日）

関連施設全体・・・・・・・・・187日（前年度188日）

□ 年間利用人数

58,395人（前年度25,272人）

□ 年間利用率

		<p>大ホール・・・・・・・・・・ 58%（前年度29%） 小ホール・・・・・・・・・・ 41%（前年度26%） ホール全体・・・・・・・・・・ 71%（前年度40%） 関連施設全体・・・・・・・・ 81%（前年度70%）</p> <p>（4）文化センター施設管理事業 委託業務仕様書に基づき文化センター全館の清掃、保安警備及び電気機械設備、消防設備等の保守管理を実施するとともに迅速かつ計画的に修繕等を実施し、施設機能の保守保全と施設の安全・快適性の保持に努めた。</p>
効率性	A	<p>業務内容の精査や業務の工夫改善により効率的な事業活動に取り組むことができた。</p> <p>（1）公演等開催事業 鑑賞機会提供事業の運営にあたっては、引き続きリスク負担の少ない共催型公演を中心に取り組み、少額費用で文化芸術の鑑賞機会を提供した。</p> <p>（2）文化会館運営事業 夜間利用管理体制の縮小など、効率的な勤務シフトの工夫により、引き続き職員の休暇確保と時間外勤務の縮減に努めた。</p> <p>（3）文化センター施設管理事業 施設機能の保全と施設の安全快適性を優先して計画的に修繕等を実施するとともに、引き続き、予算の範囲内において契約電力を増量（560kw→600kw）し、施設利用に対応した電力供給の安定に努めた。</p>
組織運営健全性	A	<p>関係法令及び定款並びに法人の諸規程に従い健全な組織運営に取り組むことができた。</p> <p>（1）評議員会・理事会・委員会の運営 関係法令及び定款に従い評議員会、理事会を運営するとともに、引き続き外部からの有識者を含めた「自主文化事業選定委員会」及び「文化会館使用料助成審査委員会」を設置して文化会館自主文化事業の適正・円滑な運営に努めた。</p> <p>（2）事務局の運営 新型コロナウイルス感染症の影響により関係研修会の大半が中止になったが、職場会議や訓練等を通じて、職員の利用相談機能の向上、専門的事務の適正処理、非常時対応力の向上に努めるとともに、引き続き業務運営マニュアルの整備に取り組み安定した事務の確立と業務の計画推進や工夫改善に向けた職員の意識向上に努めた。</p>

		<p>また、施設の利用状況に合わせて、引き続き既定の職員勤務シフトを可能な限り調整し、利用者サービスの向上に努めた。</p>
財務健全性	B	<p>業務の工夫改善とともに自主収益の確保、経常費用の見直しを積極的に推進し、良好な財務運営に取り組むことができたが安定した自主財源の確保には至らなかった。</p> <p>(1) 公演等開催事業</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、事業財源である入場料収益（主催型）、入場券販売手数料収益（共催型）及び飲料自動販売機など利便設備の設置に係る手数料収益が減収する中、補助委託制度の採択などにより事業財源の確保に努めたが安定した財源の確保には至らなかった。</p> <p>(2) 文化センター施設管理事業</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う利用取消などにより不用額が発生した光熱水料費を活用して修繕等を積極的に実施し、施設・設備の保守保全に努めた。</p>
総合評価	B	<p>令和3年度の事業活動は法人の設置目的に適合し、健全な組織運営・財務運営に努めるとともに、事業活動の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期して取り組んだが、年間を通じて感染症対策に伴う施設の利用制限が続く中事業成果は感染症拡大前の実績を下回った。</p> <p>また、従来からの課題である文化会館の新規利用や平日利用の促進及び安定した自主財源の確保に係る有効な取り組みの実現には至らなかった。</p> <p>なお、当法人は令和4年度以降定款に定める事業を継続することが困難な状況に至ったため、法人の存続期間を令和3年度末とする定款変更を行い、4月1日を以って解散した。</p>

評価の目安 A：良好である B：ほぼ良好である C：やや課題がある D：課題が多い